

令和 7 年度

教職課程

自己点検評価報告書

岡崎女子短期大学

令和 8 年 3 月

岡崎女子短期大学 教職課程認定学部・学科一覧

- ・ 幼児教育学科第一部
- ・ 幼児教育学科第三部

大学としての全体評価

岡崎女子短期大学は、建学の精神の真髄である「自由と創造」「自律と貢献」を礎に、幼児教育学科第一部と幼児教育学科第三部に教職課程を置き、幼稚園教諭二種免許状が取得できる。幼児教育学科は、「豊かな感性と良識を兼ね備えた教養人であると同時に、多様化する現代の幼児教育・保育ニーズに対応できる、優れた実践力を持つ保育者の育成」を目指している。

岡崎女子短期大学教職課程委員会は令和4年度より設置され、教学部長、ALO、学科長、教務課職員を中心に構成された委員により、教職課程の最新の動向や研修の共有を行いながら、教職課程の質の保証と向上に取り組んできた。教職課程委員会で審議された内容は幼児教育学科の学科会議で報告され、育成を目指す教師（保育者）像の点検を行うなど、教職課程委員会と学科で連携しながら教職課程を運営している。

本学における教員（保育者）養成は、カリキュラムや授業担当者、教育実習、免許取得の手続き等の具体的な指導に関しては教務委員会が、課外活動や学外ボランティアに関しては学生委員会が、就職指導やキャリア支援に関してはキャリア支援委員会が組織され、各学科より委員が選出されているほか、それぞれ教務課、学生支援課、キャリア支援課の職員が事務に当たり、教職協働しながら学生支援にあたっている。

短期間に社会で役立つ実践的能力と資格が得られるよう、効率良い必要な授業支援に徹しており、資格を付与するためコアカリキュラムに従った教育課程の授業が編成されている。

本学では、幼児教育学科第一部と幼児教育学科第三部において、幼稚園教諭第二種免許状が取得できるが、カリキュラムは同じであること、キャリア支援などは合同で実施していることなどから、今回の報告書は学科毎ではなく、幼児教育学科全体の現状や特徴を述べることとする。

岡崎女子短期大学
学長 春日規克

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの自己点検評価	
	基準領域 1	2
	基準領域 2	5
	基準領域 3	9
III	総合評価	13
IV	教職課程自己点検評価報告書作成のプロセス	14
V	現況基礎データ一覧	15

令和 6 年度教職自己点検評価報告書 資料・データなど

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：岡崎女子短期大学
- (2) 学科名：幼児教育学科第一部、幼児教育学科第三部
- (3) 所在地：愛知県岡崎市中町1丁目8-4
- (4) 学生数及び教員数（令和7(2025)年5月1日現在）

学生数： 幼児教育学科第一部 教職課程履修 108名／学科全体 108名
幼児教育学科第三部 教職課程履修 212名／学科全体 212名

教員数： 幼児教育学科第一部 教職課程科目担当 10名／学科全体 10名
幼児教育学科第三部 教職課程科目担当 6名／学科全体 6名

2 特色

岡崎女子短期大学は、昭和40(1965)年4月に開学以来、保育者、小学校教諭、介護福祉士、一般企業人を養成してきた。現在は、幼児教育学科第一部、幼児教育学科第三部の2学科、学生定員532名（在籍320名）を擁すると同時に、付属園4園（幼稚園3園、こども園1園）を有する中規模短期大学である。卒業生は、三河地方を中心に多方面で活躍しており、それぞれに高い評価を受けている。

本学の建学の精神の神髄「自由と創造」「自律と貢献」を礎に、大学の教育目的に基づき、幼児教育学科第一部・第三部（以下：本学科）では、「豊かな感性と良識を兼ね備えた教養人であると同時に、多様化する現代の幼児教育・保育ニーズに対応できる、優れた実践力を持つ保育者の育成」を目指し、全学の三方針をもとに策定された学科の三方針を策定している。また、本学科では、保育士資格を併修するカリキュラムを設定しており、0～18歳までの児童を対象に教育・保育や生活支援、また保護者に保育・子育てに関する支援を行うために必要な専門知識や能力を獲得することを目指し、教職課程教育を展開している。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状〕

本学では、建学の精神、全学の教育目的、全学の三方針に沿って、幼児教育学科の三方針を定めている。本学科のディプロマ・ポリシー（以下、DP とする）およびカリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程が編成されており、教職課程教育の目的・目標は内包されている。目指す保育者像（教師像）については入学直後の新入生オリエンテーションで学生に示し、授業科目についてはカリキュラムマップ及びナンバリングを通して学生に分かりやすく明示している。

本学科で目指す保育者像は、定期的な見直しを図り、学科会議や教務委員会等において共有されている。

さらに、本学では学習成果を可視化するツールとして、教育目標や DP を踏まえた「学修の記録（履修カルテ）」（以下：履修カルテ）を用いている。履修カルテには、目指す保育者像の指標として「保育者に必要な資質・能力」として 28 項目の観点を示している。学生は、学期ごとに学びの振り返りとして「保育者に必要な資質・能力の項目と内容」における達成度を確認することができる。

〔優れた取組〕

本学は、半世紀以上の歴史をもった地域に根付く女子大学であり、今まで優れた保育者を輩出してきた。目指す保育者像は、社会背景や保育現場の課題に合致するよう、絶えず点検をしている。本学は、幼児教育学科1学科のみを擁する単科大学であり、全教職員が保育者養成に関わっており、教職課程の目的・目標は、十分に共有されている。

学習成果について、学生が学期ごとに自己評価した履修カルテを適時閲覧し、学習状況を把握する体制が整えられている。また、履修カルテの記述内容や、学生による授業アンケートの結果等を基に学習成果のアセスメントを実施し、学習成果の獲得状況および学科の教育目標の達成状況を学科会議で共有している。

〔改善の方向性・課題〕

学習成果の可視化については、令和4(2022)年度からの継続課題である。現在の履修カルテは紙面に書き込む形であるが、学生自身がスマートフォン等で状況を随時把握できるように、電子化を進めていたが、令和7(2025)年度の入学生から、WebClassに入力する形となり、電子化が実現した。さらに、卒業生が本学での教職課程教育をどのように生かして社会に寄与しているかという点について、卒業後評価を継続的に実施し、学習成果の点検に活用するため組織的な体制の構築が課題である。加えて、目指す保育者像については、学内での共有、学生への周知だけにとどまらず、幼児教育学科のDPの点検と併せな

がら、高等学校や市町村等のステークホルダーからの意見を踏まえて点検していくことが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-1-1 令和 7(2025)年度履修要項
- ・資料 1-1-2 岡崎女子短期大学の理念・教育目的と全学三方針（Web サイト）
- ・資料 1-1-3 学修の記録（履修カルテ）

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状〕

本学科は、保育者養成に特化しており、専任教員 16 人中、保育現場での勤務経験がある教員（実務家教員）3 名を配置している。教職課程の運営については、全専任教員が参加する学科会議と連携をしながら、教務委員会、実習委員会、教務課が中心に対応をしている。教職課程委員会は、岡崎女子短期大学教職課程委員会規程に基づいて、令和 4(2022)年度から組織されている。本委員会は、教学部長を委員長とし、ALO、学科長、教務課職員等から構成される。その目的は教職課程に関する重要事項を審議することであり、本委員会は教職課程の自己点検・評価を実施するにあたり全学の中で中心的役割を担っている。定期的に委員会を開催し、教職課程の自己点検評価の実施等を通じて、教職課程の課題を洗い出し、その改善に取り組んでいる。教職課程教育を実施する上の教室・設備として、プロジェクター、中間モニター、電子黒板を有したパソコン教室、可動式什器、移動式モニターが整備されたラーニングプラザがある。他に、模擬保育を実施したり親子教室等を開催したりすることのできる「子ども好適空間研究所」がある。今年度は、電子黒板とタブレットを常設した「模擬授業演習室」と模擬保育を実施することができる「保育演習室」を整備した。さらに、学生向けに貸出用情報機器を整え、学生は図書館等からノートパソコンを借り、活用することができる。ネットワークが整備されていない教室では、モバイルルーターを貸し出し、インターネットを利用できる。教職課程の質向上のために、学生による授業評価アンケートや学修状況アンケートの実施、教員間相互の授業参観、FD・SD研修会、新任教員研修等の取り組みを行っている。令和 4（2022）年度の課題として SD研修の充実が挙げられていたが、教学支援部門に関する豊富なコンテンツがある「e-JINZAI for University」の導入および活用に加えて、教務課職員が他大学の実施する教職課程事務に関わる講習会に参加することで、SD研修の拡充を図った。

教員養成の状況（教員養成の目標、幼稚園教諭二種免許状の各段階における到達の目標、教員の養成に係る組織、教員の養成に係る教員の数、教員業績、シラバス、免許取得状況、就職状況、教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組）については、Web サイトの情報公開ページにて開示している。

〔優れた取組〕

教職課程教育を実施する上で、設備の充実を図っており、既存の施設に加えて、「保育演

習室」や「模擬授業演習室」を設置した。これらの教室を活用することで、実際の保育現場の状況に近い形で、保育実践をすることが今まで以上に可能となった。さらに、教職課程の質的向上のために、「学生による授業アンケート」だけにとどまらず、大学教員の授業参観を取り入れる等、授業改善に積極的に取り組んでいる。

〔改善の方向性・課題〕

ICT 教育環境については、昨年度の課題を克服するために Wi-Fi 環境のさらなる充実に取り組んだが、継続して保育現場で求められるより高度なニーズに対応するため、教職員の ICT 機器活用スキルの向上も図っていく。令和 4（2022）年度から継続している課題として、教職課程の自己点検評価は、短期大学認証評価と内容が重複する部分が多くあるため、合理的に進めることができる組織の構築が必要であると挙げたが、検討の結果、各点検の目的が異なることから、短期大学自己点検と教職課程自己点検については異なる組織で実施することが望ましいこととなった。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-2-1 教員養成の状況についての情報の公表（Web サイト）
- ・資料 1-2-2 岡崎女子短期大学教職課程委員会規程
- ・資料 1-2-3 令和 7(2025)年度 FD 活動報告書（Web サイト）

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状〕

本学の幼児教育学科第一部は修業年限が2年間、幼児教育学科第三部は午前中のみ授業で修業年限が3年間の違いはあるが、同じ教育体系の学科である。本学の入学者受け入れの方針(以下:AP)は、建学の精神、学力の3要素、学科毎の教育目標に合致するように全学 AP と学科毎の AP が定められており、教職課程を学ぶにふさわしい学生像を示している。入学者選抜試験では、入学試験要項において学科 AP との整合性が示されており、AP に基づいた選考が行われている。学科 AP は、Web サイト、入学試験要項に示されており、高等学校教諭を対象とした大学説明会、オープンキャンパス等を通じて周知している。

また、本学における全学の教育課程編成方針(CPI~CPII)、教育課程実施方針(CPIII~CPV)は、全学 DP に対応して示されている。これらを踏まえ、本学科の CP は、学科の DP、及び全学の CP に対応させ、教職課程を担うに相応しい、優れた実践力を持つ保育者を育成することを目指し編成されている。

本学における DP は、建学の精神、教育目的・目標を踏まえて定められている。DP では、本学の教育課程における単位認定基準によって、認定された単位が卒業要件を満たし、かつ、「人間力」「専門力」「地域貢献力」の三つの能力を身に付けたと判断した学生に対して、短期大学士の学位を授与するとしている。本学では、卒業生における幼稚園教諭二種免許状の取得率は94.9%であり、幼稚園、保育所、こども園、施設等への就職率も9割を超えている。そのため、AP・DP が教職を担うに相応しい人材の指標となっており、入学者定員を踏まえ、適切な規模の履修学生を受け入れているといえる。

本学では卒業学年以外にクラス指導主任制度を設けている。各セメスター終了後に実施するクラスミーティングにおいて、今までの学習を振り返る機会を設け、履修カルテへの記入を踏まえた教職指導を行っている。卒業年次においては、「保育・教職実践演習(幼)」第1回目の授業において履修カルテの記入を行い、「保育者に必要な資質・能力」について自己評価を行っている。これにより学生自身が個々の課題を明確にし、「保育・教職実践演習(幼)」での学習を進めると同時に、教職指導にも活用している。また、令和6年度入学生より WebClass を用いてシステム上で履修カルテを記入することとし、学生自身が現在の到達度を常に確認できるようになった。

〔優れた取組〕

教職を担うべき人材の育成として、専門的な学びへの円滑な接続をねらい、入学前教育の一環として「保育ベーシック」を開講している。本科目を受講し入学後に「教育実習指導 I」と「教育実習 I」を終えると、学内資格である「オカタン子どもサポーター」を取得することができ、学生が幼稚園、保育所、こども園等で学内資格を持って働くことができる。これにより就職前に保育現場で実践的な経験を積むことができ、学生の保育職に対する意識を高めることにもつながっている。また、地域の園に対しては、学生が自ら意欲を

持って学んでいることを示す資格でもあり、オカタン子どもサポーターを活用したアルバイトから、働いた園での就職に繋がる可能性もある。

幼児教育学科第一部と第三部では、在学年ではクラス指導主任、卒業学年ではゼミ担当教員が指導にあたる体制をとっており、それぞれ学生の適性或資質に応じた指導を行っている。教育実践に関する科目である教育実習では、実習に参加するにあたり、履修要項に示されている「実習参加の条件」を満たすことを課している。教育実習における事前指導の開始時に、この内容について説明し、教職に就く学生に相応しい取り組みについて周知している。また、「実習の手引き」が1人1冊配付されており、学生の日々の学習過程で実習との関連を意識できるようにしている。

〔改善の方向性・課題〕

令和3(2021)年度に、教務委員会、学科会議、大学・短期大学運営会議の議を経て、学長の決定により幼児教育学科第一部と第三部のAPを統一したが、その後入学者選抜試験の選抜方法の変更を行っている。教職を担うに相応しい学生を募集するために、APについて検討を重ね、令和6年度入学生より「人間力」「専門力」「地域貢献力」の枠組みは活かしつつ従来の7項目を精査し、高校生がイメージしやすいように、本学が求める人物像を示す新たなAPを制定した。また、履修カルテを更に発展させ、ディプロマ・サブリメントとして用いることができるようにし、学習成果の可視化を目指す。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-1-1 令和7(2025)年度履修要項【再掲】
- ・資料 2-1-2 令和7(2025)年度大学案内
- ・資料 2-1-3 令和7(2025)年度入学試験要項
- ・資料 2-1-4 アドミッションポリシー (Web サイト)
- ・資料 2-1-5 令和7(2025)年度教員免許取得率
- ・資料 2-1-6 令和7(2025)年度進路状況(就職率)
- ・資料 2-1-7 学修の記録 (履修カルテ)【再掲】
- ・資料 2-1-8 オカタン子どもサポーター説明資料 (Web サイト)
- ・資料 2-1-9 実習の手引き

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状〕

本学では、教職・保育職への就職を希望する学生が入学するため、入学前から一貫して、教職に就こうとする意欲や適性を把握するよう努めている。そのため、入学前教育セミナーや入学直後に実施する新入生オリエンテーション、コミュニケーションワークショップ(以下:CWS)を通して、入学当初から教職課程の履修を開始することを意識づけている。CWSでは、実務家教員からの講義や学生同士の協同的な活動を通して、保育者の魅力、保育者になるために必要な学び等について理解を深めている。特にCWSでは、「保育者のイ

メージを自ら探り、どのような保育者になりたいか考える」ことを目的としており、実施後に提出された各ワークの振り返り記述を確認することで、学生の意欲や適性を把握し、学科会議において専任教員で共有している。

キャリア支援体制は、専任教員とキャリア支援課の職員から構成されるキャリア支援委員会が中心となって構成され、学科と協働している。卒業学年の学生には、専任教員をキャリア支援担当として個別に配置し、進路面談等を通して学生のニーズや適性の把握に努めている。毎年10月以降は、内定状況一覧を学科会議で共有しながらキャリア支援委員会と連携し、進路未決定者のフォローに努めている。

キャリア支援として、居住区の就職情報について求人票の配信を行い、求人と学生の希望をマッチングさせる本学の独自システム「お仕事ナビ」を活用し、学生の求める各種情報を適切に提供している。また、毎年、愛知県私立幼稚園連盟主催の地区別説明会等の情報提供や、同連盟主催キャラバン隊を受け入れ、本学卒業生の講話を実施している。4~6月には各市町村の人事担当者を招き、学内説明会を実施している。例年12月に実施している「保育のお仕事魅力説明会(ひだまりカフェ)」では、公立園だけでなく私立幼稚園も追加し、学生のニーズに対応できるよう、多様な地域の人材との連携を図っている。

毎年作成している短期大学自己点検・評価報告書において、教員免許状取得件数、教職・保育職就職率を明記し、現状と課題について学科で共有することにより、PDCAサイクルを構築し、改善を図っている。教育・保育現場との連携については、実習園の園長を招いた実習懇談会を年に2回実施し、懇談会において、より良い実習のあり方や保育職の魅力を伝える工夫について情報交換を行っている。懇談会の情報は、実習委員会と学科会議で共有し、教員就職率を高めるために活用している。学生へは、毎年、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格の取得件数、専門職への就職率を明示している。教員就職率を高める工夫として、就職試験の実技、面接の個別指導を学科とキャリア支援委員会が協働し、実施している。

卒業生を対象とした取り組みとしては、「丘咲つながるメール」の配信や「丘咲つながるメール通信」の発刊を通して、情報を発信したり、近況報告を受けたりする場を設けている。

〔優れた取組〕

全ての学生が幼稚園教諭二種免許状、保育士資格を取得し、希望する幼稚園や保育所、こども園等への就職を支援することを目指して教職協働の体制を構築し、全学を挙げてキャリア支援活動を行っている。きめ細やかなサポートができるよう、キャリア支援委員会が中心となって学科と連携を図り、学生の状況把握に努めている。学生の状況に応じて段階的にキャリア支援を行うため、1年次より進路ガイダンスを実施し、動機づけを高めている。学生からの個別の相談に対応できるよう、進路指導担当の配置、個人面談、専門のキャリアカウンセラーを2名配置するなど、手厚いキャリア支援体制を構築している。その他、キャリア支援として多様な講座を設定するだけでなく、希望者を対象とした資格取得講座も開講している。

大学独自の取り組みとしては、卒業生や地域の保育者を対象とした「三河保育研究会(通

称:さんぽの会)」を、令和2(2020)年度に設立した。教育・保育職に就いている会員を対象に、1年に2回の企画を通して、地域の保育者と定期的に交流できるよう努めている。

〔改善の方向性・課題〕

近年、公立園を含めた教職・保育職への就職活動の早期化に伴い、入学直後の早い時期から、キャリア支援指導の実施が必須となっている。特に幼児教育学科第一部は修業年限が2年間のため、入学直後の時期より教職課程への意識や動機づけを高めていく必要がある。そのため、令和6年度より卒業年次ゼミナールの配属時期を早め、第一部1年生、第三部2年生の秋には、ゼミナール兼、進路指導担当教員をつけることとした。今後も就職活動の開始時期を踏まえて、適切な時期にゼミナール配当を行っていく。

キャリア支援においては多様な取り組みを行っているものの、参加が任意であるため、意欲の低い学生、興味関心の低い学生のフォロー、講座等の開催日程の検討が課題である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-2-1 令和7(2025)年度保育ベーシック講座実施日程表
- ・資料 2-2-2 令和7(2025)年度コミュニケーションワークショップしおり
- ・資料 2-2-3 お仕事ナビ説明資料
- ・資料 2-2-4 愛知県私立幼稚園連盟主催 地区別説明会開催資料
- ・資料 2-2-5 愛知県私立幼稚園連盟主催 キャラバン隊開催資料
- ・資料 2-2-6 各市町村人事担当者 学内説明会資料
- ・資料 2-2-7 ひだまりカフェ(要項、アンケート)
- ・資料 2-2-8 令和7(2025)年度保育実習懇談会開催資料
- ・資料 2-2-9 丘咲つながるメール通信
- ・資料 2-2-10 令和7(2025)度キャリア支援ガイダンス・講座予定表
- ・資料 2-2-11 公務員2次対策予定表
- ・資料 2-2-12 ピアノ実技対策日程表
- ・資料 2-2-13 キャリアカウンセラー面談実績
- ・資料 2-2-14 三河保育研究会開催資料

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状〕

令和4(2022)年度にCAP制の導入のために変更された学則に則り、令和7(2025)年度も単位制度の実質化と学習時間確保がなされている。また、建学の精神を具現する特色ある教職課程教育を行うため、令和4(2022)年度の幼児教育学科第一部卒業学年の学生から開始した「心理・発達コース」「遊び・実践コース」「表現・実技コース」の3つのコース毎に「子どもの研究(コース総合)」「子どもの研究Ⅰ」「子どもの研究Ⅱ」「子ども好適空間演習」の授業等を、令和7(2025)年度も開講した。幼児教育学科第三部卒業学年でも同様の授業形態での運用を令和6年度(2024)から開始しており、令和7(2025)年度も同様に開講した。

学科で定められた教育目標を達成するため、教職課程科目、保育士養成課程科目、本学独自の科目が配置されている。教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性については、履修要項にカリキュラムマップを示し、DP及びCPと各授業科目との対応を明示することで系統性の確保を図り、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。授業科目についてはナンバリングを行い、カリキュラムマップの授業科目とともに明示し、短期大学の学士課程全体を体系化している。

情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、高度情報化社会の進展に対応できる基本的な情報能力の獲得を目的とし、初年次に教養科目として「情報基礎演習Ⅰ」「情報基礎演習Ⅱ」を開講している。また、保育内容の指導法に関わる科目については、概ね情報機器の活用を含むシラバスとなっている。

課題発見や課題解決等について主体的に学習するため、教職科目30科目全ての授業内でアクティブ・ラーニングが実施されており(具体的な内容はシラバスに明示)、その中の99.1%の授業でグループワークを用いている。

シラバス作成の際、各科目の学習内容や評価方法を学生に明示することができるよう、細部の記入方法について具体的に示した「シラバスを作成する際の注意事項」「教職課程コアカリキュラム」が教務課よりメールで全教員に送信されている。併せて、シラバスチェックにおいて、「シラバスを作成する際の注意事項」が遵守されているかどうかを確認するため、教務委員会を担当する教員による体制が組織されている。また、学生へは授業回第1回目の授業において授業毎にシラバス内容の説明により周知を図っている。

〔優れた取組〕

本学では、領域に関する専門的事項と保育内容の指導法に関連する授業科目として、それぞれ5領域の全てを半期1単位の演習科目として配置している。また、5領域の表現については、「子どもと表現(音楽)」「子どもと表現(造形)」「子どもと表現(身体)」をそれぞれ半期1単位の演習科目として配置している。教職に関する科目については、下限6単位分の科目配置で定められているところ、5科目9単位とし、コアカリキュラムの充実

を図っている。

幼児教育学科では、3つのコースを卒業学年に配置し、各コースにおける到達目標に沿って、2、3年間の短期的な学びの時間の中で専門的な内容をより深められるよう、コース特化授業（コアカリキュラムをさらに深化した授業）を設定し、シラバスに明示し運用している。各コースでの学びの成果については、各コースの到達目標についての到達度を5件法（5：とてもできる、4：少しできる、3：どちらともいえない、2：あまりできない、1：まったくできない）で学生に回答を求めており（結果は表を参照）、その結果を基に次年度の授業内容に反映することができるよう整備されている。併せて、学生の学習成果を把握するため、履修カルテで学生が回答した「保育者に必要な資質能力の自己評価」について、前年度に卒業した学生のそれぞれの項目における獲得度を、年度当初の学科会議において共有がなされ、授業運営に活かすことができるようにしている。

適切に教職課程カリキュラムの編成・実施がなされているかについて、「つなげるメール」を活用した卒業生からの聴取を参考に点検を行っている。その他、本学が運営する三河保育研究会「さんぽの会」や実習園の関係者を招いての懇談会等で、保育における今日的な問題点や本学における教育の課題を把握し、適切な保育者養成がなされているかについて確認している。また、これらステークホルダーからの聴取内容については、学科会議を通して共有されている。

表：令和7年度卒業生 コースでの学びの成果

	到達目標	平均値		
		第一部	第三部	全体
心理・発達コース	子どもや保護者の過ごす環境や、持っている特徴・個性を理解した上で、対応を考え、工夫できる	4.23	4.44	4.34
	子どもの最善の利益を保证する保育が実践できると共に子育て支援が実践できる	4.15	4.40	4.28
遊び・実践コース	子どもの理解を深め、育ちに対する願いをもった総合的な指導をすることができる	4.47	4.75	4.61
	子どもの発達過程と個別の状況に合わせて、多様な経験を取り入れた遊びを展開することができる	4.41	4.63	4.52
	仲間とコミュニケーションを図り、集団の一員であることを意識しながら協働的に保育を実践することができる	4.59	4.75	4.67
表現・実技コース	様々な表現や実技に関わる知識・技能を実践的に身に付け、豊かな感性や表現力を獲得する	4.54	4.60	4.57
	子どもの中にある表現に気付き、遊びを展開することができる	4.27	4.48	4.38

〔改善の方向性・課題〕

昨年度に引き続き、シラバスチェックにおいて不備があるシラバスが見つまっているため、注意事項の明示方法、及び修正依頼の伝達方法について検討し、改善を図る必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-1-1 令和7(2025)年度履修要項【再掲】
- ・資料 3-1-2 令和7(2025)年度シラバス（web サイト）
- ・資料 3-1-3 シラバスを作成する際の注意事項
- ・資料 3-1-4 教務委員会議事録（令和7(2025)年度11月・2月）
- ・資料 3-1-5 実習懇談会次第（令和7(2025)年8月・12月）
- ・資料 3-1-6 学科会議議事録（令和7(2025)年度1月・3月）

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状〕

専門科目である「遊びと運動」では、付属園の子どもを招いて、環境構成や援助技術を学ぶ機会を設けている。また、「子どもの研究Ⅰ・Ⅱ」において、付属園をはじめとした子どもとの関わりや、地域のボランティア活動等を通して、実践的な学習の機会を設けている。多くの授業においてアクティブ・ラーニングを取り入れており、特に、教育実習前に開講される授業では、模擬保育やグループワークを行い、本実習の指導計画に反映させている。毎年2月には、本学での学びの集大成として、「幼児教育祭」を開催している。この行事は、地域の子どもたちを招待しており、令和7(2025)年度で32回目の開催となる。地域の親子が2日間で約2,000人参加した。

令和4(2023)年度から、子どもにとって安全・安心で、居心地が良く、夢中になれる空間を構成できる力を身に付けることを目指して、「子ども好適空間演習」を開講している。「子ども好適空間演習」を含め、所定の単位を修得した学生は学内資格「子ども好適空間ナビゲーター(hyggeNavi)」を取得できる。各コースの学びを生かした授業を展開した後で学習成果発表を行い、振り返りと共有を図っている。hyggeNaviを取得した学生は、卒業証書と共に認定書が授与され、学びを自分の強みとして就職先で生かすことを期待している。また、地域からのボランティア募集の情報は学生支援課が取りまとめ、学生にはOWポータルで発信されている。クラブ・サークルを通して実施することもあり、地域の要望に応えられるようにしている。

教育実習などの学外実習の他にも、授業の一環として、学内の子ども好適空間研究所に付属園の子どもや地域の親子を招くなどして、地域の子どもの実態を理解する機会としている。また、土曜日や夏休みなど幼稚園、小学校の長期休業期間に親子教室を開催し、それらを通して、教育実践の最新の事情について学生が理解する機会となっている。

本学では岡崎市、西尾市、豊田市、知立市、豊川市と子育て支援、教育・保育分野において地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的に包括連携協定を締結している。岡崎市とは、勤続4年目の保育者を対象に、保育実践力を身に付けることを目的とした「岡崎市定期講座講習」を年間4回実施している。西尾市とは離職者防止を目的とした研修を継続して実施しており、今年度は、保育者の資質向上を目的とした「岡崎女子大学・岡崎女子短期大学スパイラルUP研修2025」を開講している。加えて、本学教員の専門性を地域に生かすことができるように、研究分野や研修可能な内容を示したリストを作成し、三河地区の市町村に配布し、連携協力を図っている。

実習担当教員は、「教育実習Ⅰ」を行う付属幼稚園と「付属幼稚園実習連絡会議」を2ヶ月に1回開催し、学生が初めて行う学外実習を円滑に進め、実りある実習となるよう連携を図っている。また、「教育実習Ⅱ」を行う幼稚園などとは、毎年1回教育実習懇談会を開催し、グループディスカッションなどを通して、実習に関する情報交換や共有を図り、より緊密な関係づくりと相互理解に努めている。

〔優れた取組〕

本学は付属園が近くであり、授業内で子どもと関わりをもつ時間が作りやすい。第一部2年生は、令和4(2022)年度からコース制を取り入れており、3つのコースに分かれて授業を実施している。このコース制では、学生の興味・関心がある領域について、深く学ぶことができるようになっている。第三部でも、令和4(2022)年度入学生よりコース制を導入したカリキュラムが開始され、令和6(2024)年度より卒業学年でコース別のクラス編成となった。加えて、「子どもの研究Ⅰ・Ⅱ」「コース総合」の授業では、第一部生と第三部生が合同で、興味・関心のある領域についての学びを深めた。

教育実習の事前指導においては、一人一人の実習に対する意識や行動が重要になるため、個別的な指導を取り入れるようにしている。また、欠席者に対しては、必ず補習を実施するため、実習に対する準備を確実に行うことができている。本学は地域と密に連携する体制が確立されているため、互いの状況や要望を共有しやすく、学外実習において発生する多様な事案についても、緊密な連携体制により、情報共有が可能であり、多様化する学生に対して、柔軟な個別対応に結びついている。

〔改善の方向性・課題〕

コース制や学内資格「子ども好適空間ナビゲーター」は、新しい取り組みであるため、丁寧に振り返りを行い、学習内容や学習成果の評価について検討し、学科会議で共有しながら内容を深めていく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-2-1 令和7(2025)年度シラバス (web サイト) 【再掲】
- ・資料 3-2-2 実習の手引き 【再掲】
- ・資料 3-2-3 令和7(2025)年度オカタン子どもサポーター実施報告
- ・資料 3-2-4 令和7(2025)年度ボランティア活動一覧
- ・資料 3-2-5 令和7(2025)年度子ども好適空間研究所の利用状況
- ・資料 3-2-6 令和7(2025)年度 親子教室活動一覧
- ・資料 3-2-7 令和7(2025)年度岡崎市定期講座講習 研修資料
- ・資料 3-2-8 令和7(2025)年度「スパイラル UP 研修」「ステップ UP 研修」リスト
- ・資料 3-2-9 令和7(2025)年度付属幼稚園実習連絡会議資料
- ・資料 3-2-10 令和7(2025)年度教育実習懇談会資料

Ⅲ. 総合評価

岡崎女子短期大学は、昭和 40(1965)年 4 月に開学以来、地域に根ざした保育者養成を行ってきた。現在は、幼児教育学科第一部、幼児教育学科第三部の 2 学科、学生定員 584 名（在籍 386 名）を擁すると同時に、付属園 4 園（幼稚園 3 園、こども園 1 園）を有している。本学では、建学の精神の神髄である「自由と創造」「自律と貢献」を礎として、DP に基づく教職課程教育の目的・目標を設定し、「豊かな感性と良識を兼ね備えた教養人であると同時に、多様化する現代の幼児教育・保育ニーズに対応できる、優れた実践力を持つ保育者の育成」を目指して教職課程を展開している。

本学は、幼児教育学科 1 学科のみを擁する単科大学のため、全教職員が保育者養成に携わっている。教職課程の運営に関しては、教学部長、第一部学科長、第三部学科長、ALO、教務課職員を中心として、教職課程委員会が設置され、教職協働体制を構築している。また、教職課程委員会は、幼児教育学科、教務委員会、実習委員会、キャリア支援課、学生委員会とも連携しながら学生の教職課程での学びをサポートしている。

本学の教職課程においては、（1 「保育演習室」を利用した実践に即した教育（2）学内資格「オカタン子どもサポーター」を通じた人材養成（3）コアカリキュラムの充実化（4）学科とキャリア支援課の連携による進路指導體制（5）地域貢献を目的とした地域連携の強化の構築等を通して、教職課程履修学生に対して個に応じた教員養成を行ってきた。卒業生における教育・保育専門職の就職率は毎年 95%を超えており、教職課程教育として一定の成果を出し続けている。

令和 6(2024)年度の教職課程自己点検を通して明らかとなった課題は、今後短期大学運営会議、学科会議等を通して全教職員で共有し、具体的な改善策を検討していく。また、連携市や実習園などと密接な連携を取り、本学の学びの特色であるコース制のあり方やキャリア支援を含めた教職課程教育が、社会のニーズや変化に適応し得る保育者養成となるよう、質の向上に繋げていきたい。

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本報告書の作成にあたり、岡崎女子短期大学教職課程委員会において、次の手順にて進めることを確認した。

- 第1プロセス：岡崎女子短期大学教職課程委員会において、実施方針及び実施手順（自己点検評価の目標、実施組織、実施期間、実施対象を含む）を検討する。
- 第2プロセス：岡崎女子短期大学教職課程委員会は、各学科の教職課程カリキュラムやシラバス内容を含む教育活動の法令由来事項について点検する。
- 第3プロセス：岡崎女子短期大学教職課程委員会は、教職課程の自己点検評価の進め方（観点や収集資料等を含む）を検討する。
- 第4プロセス：岡崎女子短期大学教職課程委員会は、教職課程の自己点検評価の実施について最終確認し、学科会議にて報告・依頼をする。
- 第5プロセス：岡崎女子短期大学の教職員は、自己点検評価活動を実施し、活動結果をもとに報告書を作成する。岡崎女子短期大学教職課程委員会は必要な支援を行う。
- 第6プロセス：岡崎女子短期大学教職課程委員会は自己点検評価報告書を最終確認した後、岡崎女子短期大学学長へ報告し、承認を得た上で情報を公表する。
- 第7プロセス：岡崎女子短期大学教職課程委員会は自己点検評価活動によって確認した課題を、改善・向上するためのアクションプランを策定する。学長室会議、大学短期大学運営会議、学科会議で共有し、全学連携のもと改善・向上活動を進める。

V 現況基礎データ一覧

令和 7(2025)年 5 月 1 日現在

法人名 学校法人 清光学園					
大学・学部名称 岡崎女子短期大学					
学科やコースの名称 幼児教育学科第一部、幼児教育学科第三部					
1 卒業者数、教員免許取得者数、教員採用者数など					
① 昨年度卒業者数	幼児教育学科第一部		85 名		
	幼児教育学科第三部		94 名		
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)	幼児教育学科第一部		81 名		
	幼児教育学科第三部		93 名		
③ ①のうち教員免許取得者の実数 (複数免許取得者 1 と数える)	幼児教育学科第一部		84 名		
	幼児教育学科第三部		92 名		
④ ②のうち、教職に就いた者の数	幼児教育学科第一部		26 名		
	幼児教育学科第三部		42 名		
④のうち、正規採用者数	幼児教育学科第一部		26 名		
	幼児教育学科第三部		42 名		
④のうち、臨時的採用者数	幼児教育学科第一部		0 名		
	幼児教育学科第三部		0 名		
2 教員組織					
	教 授	准教授	講 師	助 教	その他
教 員 数	幼児教育学科 第一部 4 名	幼児教育学科 第一部 4 名	幼児教育学科 第一部 2 名	幼児教育学科 第一部 0 名	幼児教育学科 第一部 0 名
	幼児教育学科 第三部 2 名	幼児教育学科 第三部 3 名	幼児教育学科 第三部 1 名	幼児教育学科 第三部 0 名	幼児教育学科 第三部 0 名
	計 6 名	計 7 名	計 3 名	計 0 名	計 0 名
相談員・支援員など専門職員数			3 名		